

## 稲わらの思い出

安藤 直彦 名古屋市長

私は都会生まれの都会育ちで、わらにはあまり縁がなかった。しかし、戦災で焼け出され、愛知県西部の今の愛西市に疎開して稲わらに出会った。

愛西市は水田に恵まれコメ農家が多かった。疎開してお世話になった親戚の家も主要作物は稲だった。

農家は刈り取った稲は脱穀して稲わら部分は米俵を編んだり、収穫したばかりのコメなどを天日で乾燥するためのムシロを編むために使っていた。

運動靴などの履物が自由に手に入らなかった当時、わら草履を自分で作ったこともあるが、手間がかかるわりにすぐすり減ってしまうので当

時は道6 kmの通学に使うには実用的ではなかった。

一方、一面の田園地帯で森林は全くなく、燃料になる薪は地元では全く採れない。大部分の農家は炊事や風呂沸かしのための燃料をわざわざ稲わらに頼っていた。しかし、稲わらはかさばる一方、すぐ燃え尽きてしまう。勢い「たきものくべ」は子供達の仕事になる。しかし、今の言葉で言えば地球に優しいバイオマス燃料（再生可能エネルギー）であった。熱効率は悪いかもしれないが、ほとんど手を加えずに済む燃料だった。

一方、疎開もの私たちにはわらは手に入らない、もちろん薪もない。

## わらは、百姓の基本

★聞き書き 原田 寿賀子

◇話し手/中内英夫さん 昭和15年生まれ 上勝町八重地在住

### ○わらは生活の全部で使う

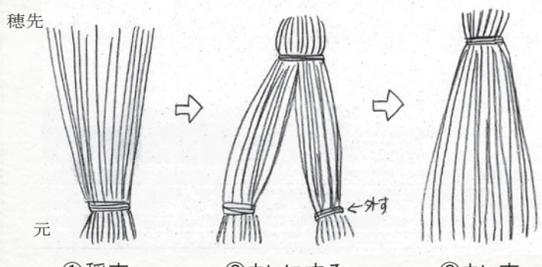
わらについてか。わらは稲落としたカラでえな。いろいろな細工ものになり、くくるのの、使ったつた。

わらの使い道はおしめ（しめ縄）から始まる。わら草履、むすこも、わら縄、ほうき、ふこ、米俵俵締める縄、もっこ。もっこは大体シユロ縄で編むんじやけんじよ。わら縄なんじよにえんじよにあかんじよになつたけんじよ。このもっこで赤土をよむんじやけんじよ。編むもとはわらの細い縄を使うんじよ。

百姓は年中腰にの、わらをつけて、草刈るときも稲刈るときも麦刈つたりするときも、腰からわら引き抜いて束しつたんじよ。全ての物をくつたりするの、わらでやるけんじよ。百姓の基本じやの。生活の全部で使つた。ひとつも、わら放るうんじよはなかつたんじよ。

### ○使いわら牛のえさのわら

稲刈つたわらにかけて、半月ぐ



①稲束 はでに干す  
②ウレにする 2把を穂先で束ねる。元の束ねは外す  
③ウレ束 元が立つので、くるとは崩れず、利用もしやすい

らしい乾かすんじよ。稲が乾いたら脱穀する。それから稲束の2把をウレ束にするんじよ。ほの時分、わら5、6反、田つくとつたけんじよ。わら細工したり、草を束にしたりする、使いわらと、牛のえさとかに使うわらの一年分を、ほれで確保しつた。前の年の余つた使いわらは、牛のえさにしたりしつた。

使いわらは、稲をきれいにきつたり。やりこうですぐ切れるようなら、牛のえさにしたわら。ほれはぐるにして田んぼに半年ぐらい積んどくんじよ。4メートルくらい芯棒を立てて、束を積んでいくんじよ。しんぐら。ほんで最後、上から雨入つてこんじよ。しんぐらをちよつと残して置いて、束を傘みたいに広げておくんじよ。下の方に雨が入りにくいし、わらが濡れても乾くんで、えつともつちよつと。ほらうちらの田んぼによけ拵えただわ。

つくまみぐる、つちゆうんもある。ほれは下が細いんじよ。雨が入りにくいんじよけんじよ、風吹いたらこ

### ○野で使うわら

野で使うわらは、叩かん。そのまのやつを使う。乾いたらわらは、そのまま使うたら硬いけんじよ、き切れるけんじよ。必ず水につけて、湿すんじよ。ほいたらやりこうなるけんじよ。

### ○おしめ（しめ縄）は、からわらで

おしめはからわらでなうんじよ。からわらつてどないせん硬いわらな。分かんけんじよのおしめつちゆうんは、お神さんに祀るものやけんじよ。叩いているいるしたわらはいかん、ちゆうつちやの。そのままおしめにのつて、祀るつちゆうんじよ。

### ○使い方によって縄は変わる

ものによって、使い方によっていろいろの縄の太さは変わるわら。だすの縄は細うんじよ。わら4本取つて、2本ずつくらいでなうんじよ。太かつたらだすに隙間あくで、隙間を細い少のうするたに、細いんじよ。むしろはちよつと太いんじよ。縄の間へわら置いて、上からとん縮めるけんじよ。わらちよつと縮めるけんじよ。

### ○米俵はぐつり締める

米俵は拵えたぞ。だすみたいに編んで、俵の直径は45センチくらいあつた。

米俵の胴はものすこし締めるけんじよ、ひょうたんみたいな形しつた。精いっばい締めていたら虫がわかん。つちゆうん。ほり、つちゆうん。カプトムシのこもした黒い虫が米を食うんじよ。ほなけん締めても切れんだけの縄でなかつたら。胴縄ちゆうん、一番締めこむわら縄なんじよ。

胴を締めるけん、米俵は二重にしようつた。一旦米俵拵えら。一番最初に尻を締まきれきれいにかがるんじよ。ほいで米俵の両端へ、さんどちゆうん、わらで編んだ厚さ3センチくらい丸いので、ふたするんじよ。ほの外から、もいっ

### ○いよもちは細工によかつた

わら細工するのは、いよもちのわらが使ひよかつたんじよ。ほれはちよつと。カラがやりこうで粘り強かつたんじよ。あとと、もち米でほなえの。品種改良して、やりこうで、やつぱりカラがねばい、やりこうで、束を積んでいくんじよ。ほなけん、カラのしゃんとした苗になつてもうたんじよ。使いわらには向かんじよになつたんじよけんじよ。いよもちのわらは、牛もよう食べるんじよ。なんかいんかの。

### ○米俵はぐつり締める

米俵は拵えたぞ。だすみたいに編んで、俵の直径は45センチくらいあつた。

米俵の胴はものすこし締めるけんじよ、ひょうたんみたいな形しつた。精いっばい締めていたら虫がわかん。つちゆうん。ほり、つちゆうん。カプトムシのこもした黒い虫が米を食うんじよ。ほなけん締めても切れんだけの縄でなかつたら。胴縄ちゆうん、一番締めこむわら縄なんじよ。

胴を締めるけん、米俵は二重にしようつた。一旦米俵拵えら。一番最初に尻を締まきれきれいにかがるんじよ。ほいで米俵の両端へ、さんどちゆうん、わらで編んだ厚さ3センチくらい丸いので、ふたするんじよ。ほの外から、もいっ

### ○いよもちは細工によかつた

わら細工するのは、いよもちのわらが使ひよかつたんじよ。ほれはちよつと。カラがやりこうで粘り強かつたんじよ。あとと、もち米でほなえの。品種改良して、やりこうで、やつぱりカラがねばい、やりこうで、束を積んでいくんじよ。ほなけん、カラのしゃんとした苗になつてもうたんじよ。使いわらには向かんじよになつたんじよけんじよ。いよもちのわらは、牛もよう食べるんじよ。なんかいんかの。

ろりん、とこけまわりよるんで、やたらせなんだの。こま田んぼではしよつたけんじよ。

ぐるが今あつたらちよつと風流なう。きれいじやのう。うちの田んぼが今、1反8畝あるんじよ。1アールに1つやけん、12、3ぐらいが田んぼに並ぶんじよ。まこと田舎の昔の風景じやけんじよ。今から50年前の風景で、半世紀前の風景じや。

### 徳島県上勝町

しんぐらな取つてひまうんじよ。芯だけみだにするんじよ。ほなけん、切れすに使うんじよ。カラの長い稲で、きれいに乾いてるわらは、使いよいわらじやの。むしろ編んだりするのは、長いんがええけんじよ。乾いたわらは納屋の一番上の天井裏へいっばい押し込みよつた。

大の短いやつとか、乾き具合が悪かつたり、しんぐらとか、堆肥にして、牛のえさにしたわら。ほれはぐるにして田んぼに半年ぐらい積んどくんじよ。4メートルくらい芯棒を立てて、束を積んでいくんじよ。しんぐら。ほんで最後、上から雨入つてこんじよ。しんぐらをちよつと残して置いて、束を傘みたいに広げておくんじよ。下の方に雨が入りにくいし、わらが濡れても乾くんで、えつともつちよつと。ほらうちらの田んぼによけ拵えただわ。

つくまみぐる、つちゆうんもある。ほれは下が細いんじよ。雨が入りにくいんじよけんじよ、風吹いたらこ

### ○いよもちは細工によかつた

わら細工するのは、いよもちのわらが使ひよかつたんじよ。ほれはちよつと。カラがやりこうで粘り強かつたんじよ。あとと、もち米でほなえの。品種改良して、やりこうで、やつぱりカラがねばい、やりこうで、束を積んでいくんじよ。ほなけん、カラのしゃんとした苗になつてもうたんじよ。使いわらには向かんじよになつたんじよけんじよ。いよもちのわらは、牛もよう食べるんじよ。なんかいんかの。

### ○米俵はぐつり締める

米俵は拵えたぞ。だすみたいに編んで、俵の直径は45センチくらいあつた。

米俵の胴はものすこし締めるけんじよ、ひょうたんみたいな形しつた。精いっばい締めていたら虫がわかん。つちゆうん。ほり、つちゆうん。カプトムシのこもした黒い虫が米を食うんじよ。ほなけん締めても切れんだけの縄でなかつたら。胴縄ちゆうん、一番締めこむわら縄なんじよ。

胴を締めるけん、米俵は二重にしようつた。一旦米俵拵えら。一番最初に尻を締まきれきれいにかがるんじよ。ほいで米俵の両端へ、さんどちゆうん、わらで編んだ厚さ3センチくらい丸いので、ふたするんじよ。ほの外から、もいっ

### ○いよもちは細工によかつた

わら細工するのは、いよもちのわらが使ひよかつたんじよ。ほれはちよつと。カラがやりこうで粘り強かつたんじよ。あとと、もち米でほなえの。品種改良して、やりこうで、やつぱりカラがねばい、やりこうで、束を積んでいくんじよ。ほなけん、カラのしゃんとした苗になつてもうたんじよ。使いわらには向かんじよになつたんじよけんじよ。いよもちのわらは、牛もよう食べるんじよ。なんかいんかの。

ろりん、とこけまわりよるんで、やたらせなんだの。こま田んぼではしよつたけんじよ。

ぐるが今あつたらちよつと風流なう。きれいじやのう。うちの田んぼが今、1反8畝あるんじよ。1アールに1つやけん、12、3ぐらいが田んぼに並ぶんじよ。まこと田舎の昔の風景じやけんじよ。今から50年前の風景で、半世紀前の風景じや。

### 徳島県上勝町

しんぐらな取つてひまうんじよ。芯だけみだにするんじよ。ほなけん、切れすに使うんじよ。カラの長い稲で、きれいに乾いてるわらは、使いよいわらじやの。むしろ編んだりするのは、長いんがええけんじよ。乾いたわらは納屋の一番上の天井裏へいっばい押し込みよつた。

大の短いやつとか、乾き具合が悪かつたり、しんぐらとか、堆肥にして、牛のえさにしたわら。ほれはぐるにして田んぼに半年ぐらい積んどくんじよ。4メートルくらい芯棒を立てて、束を積んでいくんじよ。しんぐら。ほんで最後、上から雨入つてこんじよ。しんぐらをちよつと残して置いて、束を傘みたいに広げておくんじよ。下の方に雨が入りにくいし、わらが濡れても乾くんで、えつともつちよつと。ほらうちらの田んぼによけ拵えただわ。

つくまみぐる、つちゆうんもある。ほれは下が細いんじよ。雨が入りにくいんじよけんじよ、風吹いたらこ

### ○いよもちは細工によかつた

わら細工するのは、いよもちのわらが使ひよかつたんじよ。ほれはちよつと。カラがやりこうで粘り強かつたんじよ。あとと、もち米でほなえの。品種改良して、やりこうで、やつぱりカラがねばい、やりこうで、束を積んでいくんじよ。ほなけん、カラのしゃんとした苗になつてもうたんじよ。使いわらには向かんじよになつたんじよけんじよ。いよもちのわらは、牛もよう食べるんじよ。なんかいんかの。

### ○米俵はぐつり締める

米俵は拵えたぞ。だすみたいに編んで、俵の直径は45センチくらいあつた。

米俵の胴はものすこし締めるけんじよ、ひょうたんみたいな形しつた。精いっばい締めていたら虫がわかん。つちゆうん。ほり、つちゆうん。カプトムシのこもした黒い虫が米を食うんじよ。ほなけん締めても切れんだけの縄でなかつたら。胴縄ちゆうん、一番締めこむわら縄なんじよ。

胴を締めるけん、米俵は二重にしようつた。一旦米俵拵えら。一番最初に尻を締まきれきれいにかがるんじよ。ほいで米俵の両端へ、さんどちゆうん、わらで編んだ厚さ3センチくらい丸いので、ふたするんじよ。ほの外から、もいっ

### ○いよもちは細工によかつた

わら細工するのは、いよもちのわらが使ひよかつたんじよ。ほれはちよつと。カラがやりこうで粘り強かつたんじよ。あとと、もち米でほなえの。品種改良して、やりこうで、やつぱりカラがねばい、やりこうで、束を積んでいくんじよ。ほなけん、カラのしゃんとした苗になつてもうたんじよ。使いわらには向かんじよになつたんじよけんじよ。いよもちのわらは、牛もよう食べるんじよ。なんかいんかの。

ろりん、とこけまわりよるんで、やたらせなんだの。こま田んぼではしよつたけんじよ。

ぐるが今あつたらちよつと風流なう。きれいじやのう。うちの田んぼが今、1反8畝あるんじよ。1アールに1つやけん、12、3ぐらいが田んぼに並ぶんじよ。まこと田舎の昔の風景じやけんじよ。今から50年前の風景で、半世紀前の風景じや。

### 徳島県上勝町

しんぐらな取つてひまうんじよ。芯だけみだにするんじよ。ほなけん、切れすに使うんじよ。カラの長い稲で、きれいに乾いてるわらは、使いよいわらじやの。むしろ編んだりするのは、長いんがええけんじよ。乾いたわらは納屋の一番上の天井裏へいっばい押し込みよつた。

大の短いやつとか、乾き具合が悪かつたり、しんぐらとか、堆肥にして、牛のえさにしたわら。ほれはぐるにして田んぼに半年ぐらい積んどくんじよ。4メートルくらい芯棒を立てて、束を積んでいくんじよ。しんぐら。ほんで最後、上から雨入つてこんじよ。しんぐらをちよつと残して置いて、束を傘みたいに広げておくんじよ。下の方に雨が入りにくいし、わらが濡れても乾くんで、えつともつちよつと。ほらうちらの田んぼによけ拵えただわ。

つくまみぐる、つちゆうんもある。ほれは下が細いんじよ。雨が入りにくいんじよけんじよ、風吹いたらこ

### ○いよもちは細工によかつた

わら細工するのは、いよもちのわらが使ひよかつたんじよ。ほれはちよつと。カラがやりこうで粘り強かつたんじよ。あとと、もち米でほなえの。品種改良して、やりこうで、やつぱりカラがねばい、やりこうで、束を積んでいくんじよ。ほなけん、カラのしゃんとした苗になつてもうたんじよ。使いわらには向かんじよになつたんじよけんじよ。いよもちのわらは、牛もよう食べるんじよ。なんかいんかの。

### ○米俵はぐつり締める

米俵は拵えたぞ。だすみたいに編んで、俵の直径は45センチくらいあつた。

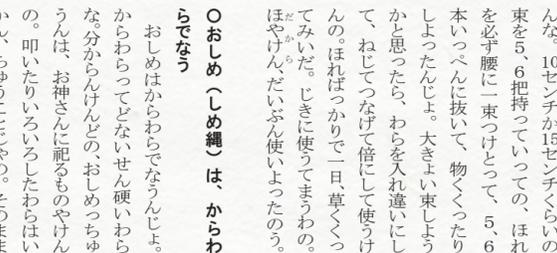
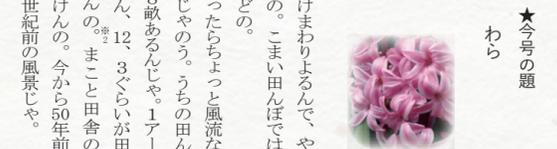
米俵の胴はものすこし締めるけんじよ、ひょうたんみたいな形しつた。精いっばい締めていたら虫がわかん。つちゆうん。ほり、つちゆうん。カプトムシのこもした黒い虫が米を食うんじよ。ほなけん締めても切れんだけの縄でなかつたら。胴縄ちゆうん、一番締めこむわら縄なんじよ。

胴を締めるけん、米俵は二重にしようつた。一旦米俵拵えら。一番最初に尻を締まきれきれいにかがるんじよ。ほいで米俵の両端へ、さんどちゆうん、わらで編んだ厚さ3センチくらい丸いので、ふたするんじよ。ほの外から、もいっ

### ○いよもちは細工によかつた

わら細工するのは、いよもちのわらが使ひよかつたんじよ。ほれはちよつと。カラがやりこうで粘り強かつたんじよ。あとと、もち米でほなえの。品種改良して、やりこうで、やつぱりカラがねばい、やりこうで、束を積んでいくんじよ。ほなけん、カラのしゃんとした苗になつてもうたんじよ。使いわらには向かんじよになつたんじよけんじよ。いよもちのわらは、牛もよう食べるんじよ。なんかいんかの。

★今号の題  
わら



各種3種。左 床の間など。中 ドア用。右 山の神様。これらはお客様の要望などにより少しづつ変化させてきたものです。サシといわれる飾り物も変わってきています。

生家は普段は野菜の無人販売をしています。その場所で年末だけお飾りの販売をするので写真のような形で見本をかけます。ローカルな販売所ですよ！

